

子の育ての窓

鹿沼市家庭教育振興会

No.32



鹿沼市 HP 「家庭教育」

子供たちとともに「時代」を歩む

鹿沼市家庭教育振興会副理事長

鹿沼市立東小学校長

鈴木 康夫

最近耳にする「Z世代」という言葉は、

アメリカのマーケティング関連の語句から来ているそうです。日本では一昨年の「新語・流行語大賞」の一つに選ばれました。消費者層を生活様式や嗜好の傾向から分類して、商品開発や販売の戦略を模索するところからきているとのこと。諸説あるようですが、今の十代半ばから二十代後半の若者たちがZ世代だそうで、生まれた時からインターネットがあり、初めての携帯電話がスマートフォンだという世代とも言われています。

また、現在の中学生以下の世代は、アルファ世代と呼ばれるそうです。スマホも広まり、SNSが日常的な中で、幼児・初等教育を受けている世代です。学校では自分の端末が手渡され、文房具として扱い始まっている世代です。

私は、この世代分けを感心して受け止めており、異論はありません。ただ「世代」という語句を耳にすると、考えることがあります。私は、自分と同世代の「昭和だから」という自虐的な会話を耳にすると、自分にも思い当たり苦笑いすると同時に、心配な気持ちになるのです。考え方や生き方は「世代」で片付けられない

と思うからです。

小中学生が生きている今は、親や祖父母世代が、途切れることのない時間の流れの中で、社会生活や経済活動を通して作り上げてきたものです。「今は令和だから」「彼らは「二十一世紀生まれ」と割り切ったり諦めたりすることなく、大人は、若者や子供たちと一緒に繋がって、今を生きていく存在でありたいと思います。子供は生い立ちの中で、周囲の影響を必ず受けます。世代観を引き合いに出したユーモラスな会話であれば良いのですが、大人世代が若い世代を、自分たちと異なる集団として捉えたり扱ったりすることは避けたいと思います。

子供たちは、先の見えにくい変化の激しい社会を、助け合いながら「生き抜いて」いかなければなりません。



そのためには、過去「あった」ことや、今「ある」ことと違った「ありかも」といった新しい思考や発想が認められなければいけません。時に過去や現在のことを参考にしながらも、新たなものを生み出すことを求められていくのだと思います。そのヒントを、大人も当事者、または伴走者として一緒に探っていかなければならぬと思います。

「どうしたいの?」「どうすれば実現できるかな?」と問いかけ、大人の価値観を絶対視せず、子供を主体にして、子供たちと接したり対話したりしていければよいと感じています。

子供たちには、「アップデート」の繰り返しに順応し、自分の言動を俯瞰視できる力を身に付けてほしいと思います。そして、自分たちや他の「世代」のイメージにとらわれることなく、「自分で自分の時代を生きるんだ」と考えるようになってほしいと願っています。



子育て交流のつどい

令和4年7月3日(日)
鹿沼市民文化センター大ホールにて



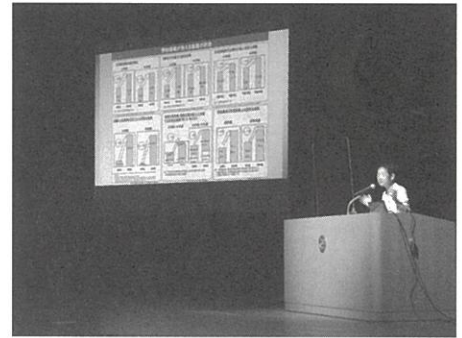
「子どもの発達と生活習慣」～自立と自律のために～

講師：國學院大學 鈴木みゆき教授 [参加者217名]

医学博士である鈴木先生は、「早寝・早起き・朝ごはん」推奨の第一人者です。医学の分野から、データをもとに子供の発達についてのお話をしてくださいました。

- 【1】睡眠の大切さ・非認知能力(自分を信じる力・思いやり・粘り強さ・創造性・自制心など、テストでは測れない力)を育てるには睡眠をたっぷりとることが大切。「朝の光とともにめざめ夜の闇とともに寝る」が理想。
- 【2】朝食の大切さ・午前中の脳の活動に必要なエネルギーは朝食から。経験からもデータからも、大学生で成績が優秀な学生は、朝食をとっている傾向が高い。また、そういう学生は、朝勉強している傾向にある。
- 【3】ネット関係・寝る直前にデジタル機器の発するブルーライトを浴びると体内のリズムが夜型化し、睡眠の質が悪くなる。また、体のさび止めの役割をするメラトニンというホルモン(がん細胞をつぶす・シミやそばかすを消す)は、暗くならないと出ない。大人も今からでも遅くないので、夜のスマホ使用を制限するとよい。
- 【4】困ったら相談・子育ては、家庭と学校、そして、地域、全てを使って子供たちを育てることが大切。困ったら周りに相談して。

このような内容を、科学的なデータをもとにユーモアを交えてお話してくださいました。参加者からは、素晴らしい講演だったと、大好評でした。



子育て・親育ち講座(スマイルクラブ)

3年間1サイクルで、市内全部の幼稚園、保育園、認定こども園等で実施され、各園の実情に合わせて講話や体験活動等が行われています。「小学校入学に向けての保護者の心構え」や「災害から命を守る」、「子どもの心と体を育む食習慣」等それぞれの園で工夫した講座を行っています。

参加した皆さんにとってよりよい学びの機会となっています。



(写真は、なんま保育園)

子育てサロン

- ♡ポニー : 毎月第1水曜日
・北押原コミュニティセンター
- ♡ハートフル : 毎月第3水曜日
・東部台コミュニティセンター

保健師さんや子育てのベテランの方、子育て中の仲間と一緒に子育ての不安や悩みを解消！

子育ての嬉しいヒントやアイデア等情報交換で盛り上がるひととき！コロナ対策をしっかりと安心してサロンが開催されます。



(写真は、ハートフルクラブイン 東部台)

就学时健康診断等を利用した親学習プログラム

★鹿沼市内12学校で実施（就学时健康診断・入学説明会の折に実施）

次年度、小学校に入学する児童の保護者を対象に、実施しています。

★実施内容

参加型のワークショップで、保護者同士が知り合いになり、入学する子どものために学び合います。

最初は少し緊張気味の表情も、交流が深まると笑顔に変わり、和やかな雰囲気の中でプログラムが進められます。話し合いを通し、お互いの悩みを共有し、共感し、親としてのあり方や役割について考えたり整理したりするきっかけとなっています。入学の不安や心配も安心と希望に変わり、知り合いも増え、「明日からの子育てをまた頑張ろう！」というエネルギーチャージの時間になっているようです。

進行は家庭教育
オピニオンリーダーせせらぎ会
と親学習ボランティアの
みなさんです



家庭教育学級啓発講座

「親学習プログラム」の最後に市内小中学校で行われている「家庭教育学級」の活動の概要について資料を使って説明しています。



子育ては、地域とともに



鹿沼市は、令和5年度から市内全小中学校にコミュニティ・スクールを導入します。（すでに13校が先進校として導入しています。）「コミュニティ・スクール」は、地域と学校が共に手を取り合って子供たちの豊かな学びを支える制度です。

そこで、今年度西小学校は家庭教育学級の学習会で、「コミュニティ・スクール」の講座を持ちました。

子供たちは、地域にある施設について学ぶことで地域のことを知り、地域で働く方のことを知ります。学級生は、学校と地域がこのようにしてつながり、子供たちの学びを支えていることを実際に見学しながら理解しました。また、子育ては、一人だけでできるものでなく地域ぐるみで行うものだという事を再認識しました。



※コミュニティ・スクールとは、「学校運営協議会」を設置し、地域と学校が手を取り合って子供たちを育てようという制度です。「学校評議員制度」から「学校運営協議会制度」に変わりました。

家庭教育学級の取り組み紹介

交流が深まった一年間

菊沢東小学校家庭教育学級 柴田 由貴

今年度も昨年度に引き続き、コロナ禍での学習会開催となりました。

学級の皆様はじめ、どうしたらより多くの方にご参加いただけるか、感染対策はどのように行ったらよいかなどを話し合い、それを通して学級生同士の交流を深めることができた一年だと思えます。

初回の学習会では「タイダイ染め」を体験しました。参加者のほとんどの方が初めての体験で、講師の先生の指導のもと真剣に取り組んでいました。それぞれが染めたいものを持ち寄り染めたので、世界でたった一つだけの素敵な作品が出来上がりました。ご参加いただいた方と楽しいひと時を過ごすことができました。

最後の学習会は「バス研修」でした。

コロナ禍での開催だったので、不安もありましたが、無事に開催できて本当によかったです。ご参加いただいた方と素敵な時間を過ごすことができました。

コロナ禍での学習会開催は、いろいろと不安なこともありましたが、学習会を通して、保護者同士の交流を深められたこと、感染対策を行いながら多くの方に「ご参加ご協力をいただきました」と、深く感謝申し上げます。



タイダイ染め

親子で体験を共有する価値

上南摩小学校家庭教育学級 青柳 春美

今年度のテーマ「親子で共通の体験を通して知識を身につけつつ、家庭でのコミュニケーションの充実を目指す」に沿って一年間取り組んできました。

七月に鹿沼消防分署の署員の方を講師に迎え「心肺蘇生法講習会」を開催しました。一人一台心臓マッサージ練習器を使用し、いざという時にためらわず胸骨圧迫やAEDを使う為の体験ができました。

九月には「創立百四十八周年記念集会・ミニコンサート」を学校の協力のもと開催することができました。

最初に校長先生より生活習慣と家庭のあり方に関連したお話をいただきました。

ミニコンサートでは、楽器から奏でられる音色の重なりを肌で感じる事ができ、

とても感動的な時間を過ごすことができました。児童の皆さんからは「上南摩小の好きなところ」を発表していただき、日々の学校生活が充実していることを実感することができました。

十一月には最後の実習として「抹茶と和菓子で味わう簡単茶道」として、日本に古くから伝わる茶道の作法や道具の名前を教えてくださいました。

新型コロナウイルスの影響を受ける中で、協力してくださった皆様とお忙しい中貴重な時間を割いて参加してくださった皆様に感謝いたします。



ミニコンサート

親子の触れ合いを通して学ぶ

永野小学校家庭教育学級 池澤 美恵子

永野小学校は、児童数が少ない為、全世帯が学級生です。学習会を学校行事と併せて開催するなどして、より多く参加いただけるようにしています。それに伴い、一日がかりとなってしまつこともありますが、お忙しい中、皆様にご協力をいただいております。

初回は、栄養教諭の松島先生に夏休みの食生活についての講話をいただき、併せて親子給食試食会を開催しました。皆様からは、「久しぶりの、また初めての親子給食で楽しかった。」「講話を聞いて食生活を見直すきっかけになった。」「等の声がありました。ここ数年の環境の変化により、給食の時も黙食だったり衛生面などに気を遣ったりすることが多くなったと思います。」「が、久しぶりに給食を通して楽しい時間を過ごすことができました。また、給食があるのは、本当にありがたいなあ」と改めて感じました。

次に、健康運動指導士の糸井先生に講話と実技をお願いしました。「プラス・テン」日々今よりも10分多く身体を動かすことが大事との事。分かっているようで、なかなかできていないので、普段から心がけたいです。ストレッチから始まり頭の体操にもなる手足の別の動き、最後は教わったステップでダンス。秋の晴天も重なり、久しぶりに気持ちのいい汗をかきました。



身体づくりは心づくり

皆様のご協力により無事活動することができました。ありがとうございました。